

栽培漁業センター生産事業 (2014年度のヒレジャコ種苗生産)

近藤 忍*

本事業は、養殖用のヒレジャコの種苗を量産し養殖漁家へ安定的に種苗配付を行うことにより、計画的な漁業生産を維持することを目的とした。

平成 26 年度は、沖縄本島地区から 3 千個、八重山地区から 6 万 7 千個の合計 7 万個が要望された。採卵は、殻長約 25cm の親貝延べ 40 個体を用いて 3 月から 5 月の間に 4 回行なった。日中、精密濾過海水を満たした 0.5kL パンライト水槽 4 基に親貝を各 5 個体収容してヒーターで 28℃に加温すると共に精子と卵の懸濁液を添加して産卵誘発したところ 5 個体の親貝から延べ 6,912 万粒を採卵した。孵化率は、69.9%で 4,834 万個体の孵化幼生を得た。うち、4,175 万個体の孵化幼生を 20kL 水槽に収容して止水微通気で飼育し、日齢 13 までに幼生の着底を確認した。

その後、止水微通気のまま約 2 カ月間飼育したが、その間、ヒーターで加温し水温を 25～30℃の範囲に保つと共に青い遮光ネットで遮光し、光量を 1,000μmol

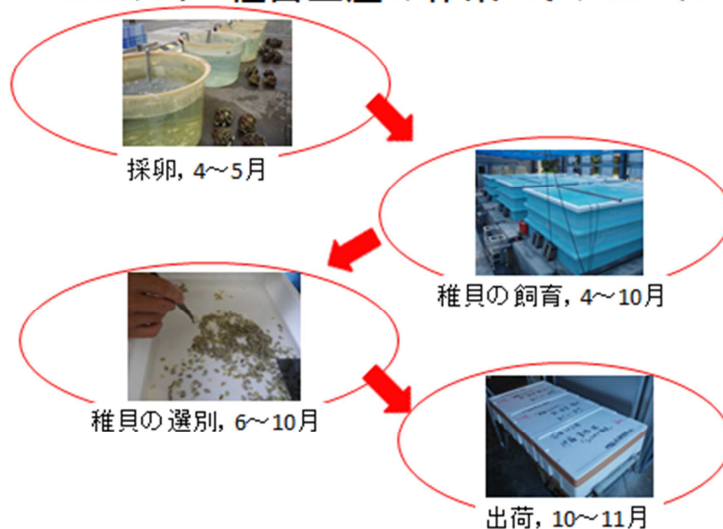
／m²／sec 以下に抑えた。また、飼育水は 1 週間に 1 回半換水し、2 週間に 1 回全換水した。また、日齢 2 から日齢 24 までの間、飼育水槽へ若齢のヒレジャコから抽出した褐虫藻を飼育水中の密度 5～10cell／mL で 6 回添加して共生成立を促した。日齢 26 までに共生成立率が 100%に達したが、共生成立時の生残率は 6.6%であった。

日齢 60 から濾過海水を注水して流水飼育を行った。日齢 60～70 で殻長 1mm に成長したが、生残率は 0.9%だった。日齢 90 から水槽内に繁茂する珪藻類を除去するためウミナを 1m²当たり 100 個体の密度で投入した。その後、出荷サイズに達するまで 2 週間に 1 回全換水すると共に稚貝の取り上げ選別を繰り返した。9 月上旬までに平均殻長 4.0～18.6mm の種苗を 24 万個体生産した。2014 年 8 月から 2015 年 2 月までに平均殻長 13.7～20.0mm の種苗を 7.5 万個体出荷し、要望数を満たした。

表1.ヒレジャコの配付実績

出荷日	漁協名	個体数	平均殻長 (mm)	用途
2014/8/29	八重山	10,000	13.7	養殖
2014/9/30	八重山	10,000	18.3	養殖
2014/10/3	八重山	5,000	16.9	養殖
2014/10/6	八重山	1,000	16.8	養殖
2014/10/10	八重山	15,000	16.8	養殖
2014/10/22	八重山	15,000	15.6	養殖
2014/10/24	八重山	10,000	15.7	養殖
2014/10/30	八重山	5,000	15.4	養殖
2014/11/5	糸満	2,000	17.6	養殖
2014/11/28	糸満	1,000	18.2	養殖
2015/2/2	八重山	1,000	20.0	養殖
合計		75,000		

ヒレジャコ種苗生産の作業スケジュール



* E-mail : kondoush@pref.okinawa.lg.jp , 石垣支所